

住宅内の事故の実態

子どもの事故が多発しています。3歳未満の事故は家庭内で起こることが多く、「平成21年度安全知識循環型社会構築事業」で医療機関から収集した8334件の製品による傷害について、数が多い順に並べてみると、自転車、階段、いす、遊具、ベッド、テーブル・机、ドア、自動車、おもちゃ、ソファの順でした。この結果は、今まで報告されているものと同じです。

具体的な事例と予防策

【転倒・転落】製品による事故で多いものは、そのほとんどが転倒・転落に係っています。寝返りをするようになるとベッドやソファから転落し、ハイハイができるようになる階段やいすから落ち、歩くようになるとどこでも転んだり、落ちたりします。ドアの蝶つがい側で指を挟む事故も多発しています。重症度が高いのは高所からの転落です。2cm以上の突起があれば足掛かりとなつて登ることができません。手すり柵の



くらしの事故注意報

住宅内での事故を予防する

高さは足掛かりから90cm以上、ベランダに置く製品は手すり柵から60cm以上離して設置しましょう。階段の上下の入り口には柵をつけましょう。【誤飲・窒息】6か月になると、手で物をつかみ、つかんだ物を口に持っていく誤飲が発生します。飲み込んだ物がのどや気管に詰まって窒息することもあります。重症度が高いものは、ボタン電池、医薬品、農薬などです。3歳児の最大開口口径である39mm以下のものは、子どもの手の届かないところに置くようにしましょう。

【やけど】1歳から1歳半の年齢によく起こります。家庭内にある熱源のすべてがやけどの原因になります。みそ汁やコーヒーなどの飲料、アイロン、電気炊飯器、ポット、ホットプレート、ストーブなどによるやけどがよくみられ、ホットカーペットでは低温やけどとなることもあります。50度以上の熱を持ったのであればやけどをする可能性があります。乳幼児が熱源に接触できないようにする必要があります。

【溺水】わが国では、お湯につかる入浴法のため、風呂にたまってある水の中に子どもが転落し、おぼれることがあります。洗い場からの浴槽の縁の高さが50cm以下、残り湯、浴室の入り口に鍵がない、の三つが危険因子です。これらの事故は必ず起こるものと考え、重症度が高いものについては前もって対策を立てておく必要があります。

熊本県消費生活センター ☎383-0999 役場住民生活課 消費生活相談窓口 ☎286-3111 内線111・112
消費者地域相談員 遠山美智子 ☎286-4125 大塚慶子 ☎286-4792 吉村静代 ☎286-5914 富田セツコ ☎286-6525

あまの 地名遷歩

歴史の変遷と地名

329

矢嶋姉妹周辺⑭

「女大学」は、江戸時代の儒者貝原益軒の著とされますが不確実です。はじめは児童教育書「和俗童子訓」の中の女子教育論でしたが、後にその部分だけを分離独立して出版し、原文の七か条が、後年は九か条の女子道徳論となり、内容は封建的隷従的徳徳を説いたとされ、明治以降、福沢諭吉などの批判書が出ました。

「比売鑑」は、江戸時代の儒者中村惕齋の書とされ、朱子の「小学」を基礎として、通俗親切に婦道を説き、模範的な女性を紹介記述したとされる教育書です。

中国では、明の時代に「女四書」と呼ばれる女性教育書が四種類出ていて、日本では江戸時代に女四書の一つの「女孝経」の翻訳本が出ています。

これらは、日本の女性が守るべき道徳(婦徳)を養うための普遍的な教養書ですが、すべて儒学を基礎とした漢籍です。矢嶋家は、これらを基本にその教育が施されたと考えられます。

NHKの大河ドラマ「篤姫」の中で、島津斉彬の養子となつた篤子が四書・五経を読む

と聞いて、女子には珍しいと驚き、祝いの引き出物に斉彬が四書・五経を贈る場面がありました。当時、漢籍は男子の学問で、女子は縁のない世界とされたのがこの場面でも分かります。

しかし矢嶋家では姉妹は、熊本府内に留学の兄・直方の帰郷の折にこれらの漢籍を学んだとされ、当時の女子教育では独特な家庭教育だったようです。このような教育思想を持った鶴子も、実家で同様の教育を受けたと思われる

このような教育は、矢嶋家を巡る一族には共通の教養の雰囲気、武士である以上、熊本府内への子弟の留学は熱心であったでしょう。

益城町文化財を訪ねる会
会長 松野國策



四書のうちの孟子